

< 基本理念 > 持続可能な地域づくりに貢献する文化芸術振興の実現

身近な文化芸術環境の整備 (広げる・高める・深める)

- 市民の自主的な文化活動への支援
- 市民による文化芸術活動の発表機会の創出
- 豊かな自然、風土を活かした文化資源の掘り起こし
- 多様な歴史文化資源の保存・継承および活用

あらゆる市民が文化芸術に触れ、参加する機会の創出 (楽しむ・親しむ)

- 施設の個性や特性を活かした文化芸術振興体制の実現
- 身近な文化芸術や地域の伝統芸能・伝統工芸に触れる機会の創出
- 生きづらさを抱えた人への文化芸術の鑑賞機会の提供

次代を担う人材の育成 (子ども・若者への取り組み)

- 子どもや若者を対象とした文化芸術の鑑賞・体験機会の創出
- 多文化共生の理解促進など、青少年の国際文化交流の推進
- 区を越えた文化芸術、伝統芸能の交流の推進
- アートマネジメント人材の育成

開かれた文化施設の実現 (居場所・交流の場)

- 居場所・交流の場としての文化施設の実現
- 市内全域および近隣市町村からの文化施設へのあらゆるアクセシビリティの確保
- ハード・ソフト両面における障がいへの対応 (合理的配慮)

文化芸術の持つ価値を 他分野に活かす (活用)

- 多様性と共生社会への理解促進 (障がい者や高齢者、外国人市民等のコミュニティ参加の促進)
- 歴史文化資源を活かしたまちづくり
- 多様な文化資源や文化施設を活用した交流人口拡大への貢献
- 豊かな食文化を活かした観光施策の展開
- 創造産業等、文化ベンチャーの育成・支援
- 多様性に配慮した就労環境の整備促進

総合的な推進体制の構築

- 行政およびアーツカウンシル新潟等、関連機関の一体的な連携体制の構築
- 災害等のリスクに対応した文化芸術振興体制の整備
- 文化芸術関連統計データの収集、分析の体制整備および政策評価の実施

庁内ワーキングで出た課題や意見

- ・それぞれの柱には優先順位があるのではないかと。どのように優先度をつけるべきか。
- ・このビジョンは、誰のためのビジョンか。市民、行政、関係団体、企業の役割分担の記載が必要か。
- ・「新潟市らしさ」を出すにはどうしたらよいか
- ・区の文化政策の方針をどのように表現したらよいか。
- ・子ども・若者への取り組みとして教育現場での文化芸術活動の取り込みを期待するが、実際には困難。
- ・「新潟市マンガ・アニメを活用したまちづくり構想」を次期ビジョンと一本化する方針となっているが、どのように組み込むべきか。
- ・會津八一、坂口安吾など、語り継ぐべき偉人を顕彰する取り組みは、どの柱に位置付けるべきか。「歴史文化資源」は「人」には合わない。